

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

【グループワーク 1】 C 班

テーマ：もう一度考えよう・・・「原子カムラ」はあるのか、ないのか、何なのか？

「原子カムラ」というものをどうしたらよいか？

(F) ええと、この2つを一緒にやるんですか？

(サブ F) そうですね。一続きな感じになっているんですけども、『あるのか、ないのか、何なのか？』、「ある」ということだったら、『どうしたらよいか』と。だから、そこを分けてやっていただいてもいいと思います。どうしましょうか？ 決めていただければ。

(F) そうですか。じゃあ、『あるのか、ないのか、何なのか？』を。

(サブ F) はい、こちら側をまずやりましょうか。

(F) そうすると、時間は半分になっちゃうのか。

(サブ F) それか、両方について思ったことを、どちらか片方でもいいし、両方でもいいし、書いてもらうようにしたらどうですか？

(F) では、同時に書いてもらいましょう。

ただ、ここについては分けたほうがいいということですね。

(サブ F) 検討するときは分けることにして、意見出しは一緒にやりましょう。

(F) はい。では、3分程度ということなので、たくさん書いてください。

(記入中)

(サブ F) はい。時間です。

(F) はい。では、もう書かれているみたいなので、そちらの方から。

—— あまり大した意見じゃないんですけど。まず、「あるのか、ないのか」については、

「ないということはないと思う」と。あまり積極的に肯定する気にはなれないので、ないということはないんじゃないか。

で、ムラって何だろうというところを考えたときに、あまり初回の意見と変わっていないんですけど、原子力に反対にする人たちが、自分と合わない人を、どうも都合よくひとくくりしている。そういう使い方もあるのかなってちょっと思いました。

それから、「どうしたらよいか？」ですけど、原子力だけをひたすら考えていると視野が狭くなると思うので、他と比較してみるとか、他の分野に学んでみるとか、他の視点を取り入れることが大事かなと思いました。

(F) では、次の方。

—— はい。「ある」と思います。

「なくなりつつあるものにしがみつくん々」。

(サブ F) これは「何なのか？」ですね。

—— 「安全と経済のバランスが分からぬ人々」。

あと、「全体（国民）の考え方の分からぬ人々」。

(笑)

(F) 面白いですね。以上ですか？

—— はい。

(F) では、次の方。

—— 私は、まずはムラは「ある」と思います。見えるかどうかだけの話かなと。

「何なのか？」というのは、「原発推進集団」じゃないかということと、「産・官・学・メディアの利益集団」かなと。

「どうしたらよいか？」については、「議論をオープンに」することかなと。

あと、決定前にちゃんといろいろな情報を出さないと、何となく成り行きで、誰が決めたのか責任もはっきりしないような気がします。

「再開を含めて、決定のステップを明確に」。責任をもっとはっきりしないと、再開しても、また、どこの装置が故障したのに発表しないだのなんだの、つまらないことばかり大げさになるのかなと。

(F) では、私。〔ある〕というほうで書いています。

「何なのか？」は、まあ、〔産・官・学の集合体〕ということかなと。

あと、「どうしたらよいか？」については、規制当局を廃止して、米国の規制委員会に一本化するということです。

では、次の方、お願いします。

—— はい。まず、あるというか、専門家と一般の人の、あ、「何なのか？」の中間くらいかな。

(サブ F) では、中間にどうぞ。

—— なんとなくこの辺に貼ります。〔あるというか、専門家と一般の人との考え方の違いは大きい〕というのは、前回すごく感じたことです。もうはっきりと。

「何なのか？」がちょっと書けていないんですが、「どうしたらよいか？」というところにいくと、やはり〔情報〕。

あと、同じ情報を見ていても、それをどう感じるかは、やはり〔信頼関係〕につながってくると思うので、

(F) 〔情報〕という付箋の意味は？

—— 情報というのは、例えば、前回、最終処分のなんとかというのがすごく小さくて、他の産業廃棄物に比べて処分はすごく楽というか、簡単というか、管理がしやすいということを知ったときに、そんなことを私は一度も聞いたことがなかったと思ったんです。ただ怖いと思っていたんですけど、そういう情報もまずあまり知らないと思うし。周りの人の話を聞いていても、それが怖いと言っている人はものすごく多いんですけども。

でも、その他に、いろいろな情報が新聞に出ていても、「そんなこといったって」という気持ちはやはりどこかにあって。それはやはり信頼関係にもつながる。出ている情報を信用するかしないかは、出している相手を信用しているかどうかということなので。信用している人からの情報は信じるけど、信用していない人からの情報は信じないから、その両方があるなと思いました。

(F) 情報の出し手が信用できるかどうかのほうが大事だということですね？

—— そうです。相手が信用できるかどうかというものもあるなど。

(F) では、それも書いていただいていた方がいいですか。

—— キーワードですね。

—— 「あの人のことなら信用できる」という言い方って、普段でもしょっちゅうするじゃないですか。

(F) 先ほど（自己紹介時）の池上さんの話ですね。

—— でも、新聞に書いてあることは信用しないとか。読売の言っていることだから信用できないとか（笑）。

—— 身近な問題と、ムラの問題と、両方ありますよね。

—— そういうのもあるし。

だから、何かよく分からないけど怖いというのもあるし。相手も信用できないというのもある。両方かなと。

(F) これは「どうしたらよいか？」のほうでいいですか？

—— ええ。だから、信頼関係を作っていったら、もっといろいろな話もできると思います。それが第一歩かなと。

(F) 信頼関係を作る。

では、次の方、お願いします。

—— はい。「あるのか、ないのか」といったら、やはりあるし、なくすこともきっとできないし、なくすことがいいことではないかもしれない。

というのも、（第1回で）ムラって何だろうという議論があって、結局明確な何かひとつの答えが出なかったと思うんですが、私にとって原子カムラというのは、やはり原子力の専門家集団。産・官・学の集合体と同じような意味です。そう思うので、なくすのはいいことではないと思っているということです。

「どうしたらよいか？」というのは、原子カムラが健全なムラになればいい。健全なムラに必要なのは、私は「多様性」だと思っているんです。今回は5回目なのですが、このフォーラムを通じて、私は、ムラの中に必要なのは多様性だなと確信を持ちちゃったかなと思っています。

一方、ムラの外側、市民の方は、ムラを健全に育てていくことができるんじゃないか。というのも、自浄能力には限界があるので、外からの意見とか、外からのプレッシャーが、やはり大きいんですよね。ですから、ムラに、健全になりなさいよ、というような空気を育ててもらえるといいのかなと。

具体的にはどうするのかというと、やはり関心を持ってもらったり、近くに施設があれば見学してもらったり、そんなことかなと。

最後に、ちょっとこれは問題発言かもしれないんですけど、事故が起こった責任は、100%ムラの責任なのかなって、実は私は思っています。倫理的に、何かがあったときに100%相手が悪いということはないと思っているので。そう考えると、事故の責任は100%ムラ側なのかなということもちょっと思っています。以上です。

(F) 「多様性」というのは、言葉はいいのだけど、どういう意味か少し補足していただくといいと思いますけど。

—— 第2回くらいに申し上げたんですけど、例えば東電さんの事故で、経営陣の方が皆さんで謝罪されますよね。一色なのですよ。たぶん、50代後半の男性ばかり。

(F) 女性を入れるとか？

—— まず、女性がない。それは、私の会社ももちろんムラのひとつでもあるんですけども、いろいろな部とか、組織、もちろん経営もそうなんですけど、何かを判断する人が3人いるとしたら、3人が一色なのですね。

(サブF) 同じタイプの人ばかりということですか？

—— 要は、50代後半の日本人男性で、長くその会社で働いていて、例えば他の会社から転職してきたような人はそこにはいないし。女性はいないし。年齢差も、上から下で10歳開くことはまずない。そういう人たちが判断して動かしている組織が信頼されるのかと思うと、そこからして、一般市民の意識と乖離しているんじゃないかなって思っているの。

例えば、その3人のうち、上と下が10歳離れるだけでも多様だし。もちろん女性が入ってくれば多様だし。あとはトラバークしてきた人がいるとか。多様性はいろいろなものがあると思いますけど。

(F) 分かりました。

—— 今までいろいろな話を聞いた中では一番説得力がありますね。

(F) ありがとうございます。

—— 事象とか、現れたことではなくて、根本的な経営っていうんですか、ものを作る場合の考え方というのは、今のご意見は、(原発を)残していくのであれば、こうあるべきだとは思いますがね。

(F) もし何か書き加えるならお願いしたいんですけど、何かありますか？

—— あまりに感動したんで。

(F) では、同感ですっていう感じで書いていただければ。

—— まあ、言わんとすることは同感ですね。

(F) では、メモをお願いします。

—— 何か不祥事があると、取締役全員が同じように頭を下げて、何に頭を下げているのか分からないという文化が、日本と韓国。この前の飛行機も全く同じで。その他の(国の)場合は、だいたい1人が出てきて、私が責任者ですとやっている。その責任者がいないような組織というか、マネジメント。だから、1人でちゃんとしたのはトヨタだけですね。

(F) ありがとうございます。ええと、次のテーマって、もう行くんですかね？

(サブ F) 今、意見が出ましたよね。

(F) ええ。10分間ということだったので、もう経ったかなと。

(サブ F) そうしたら、この貼られた意見に対して、自由に意見を言っていきます。もうすでに突入していますね。

この中からキーワードを拾っていただいて、ここについてもう少し話を深めましょうか、という形でやってください。あと15分くらいそれ続けてください。

(F) 今、3番をやっているんですね？

(サブ F) もう3番に突入しちゃったんです。流れで。

(F) ええと、あと 10 分くらいはあるんですよね？

(サブ F) 大丈夫です。

(F) では、皆さん、書かれたことに対して意見があれば。

(サブ F) 今、この点（多様性）について議論していましたが、他の点について、私は意見が言いたいというのを取っただけでいいでしょうか。

(F) そうですね。では、何かありますか？

—— そちらの方にお伺いしたいんですけど、マスコミからの情報と、ムラからの情報と、2 つあると思うんですけど、ちょっとマスコミのほうは置いておいて、例えばムラ関係者、それからムラ組織がこうだったら、もう少し信頼できるのにな、というのはありますか？

—— 難しいですね。ええと…。

(F) それは、ムラのどういう人が、あるいは、どういう形で情報が出ていったら、信頼してもらえらるだろうか、という質問ですかね。

—— 本当にそれは難しいなと思いましたね。今回いろんな、このフォーラムを通してというのもあるし、ちょうど今選挙で周りの人たちが原発について話しているのを聞いていても、うーん、どうしたら信頼が、

—— ひとつ、今、東電の社長がいますよね。完全に破産してしまった会社の社長なので、実質的に。もう何もない。従業員が辞めすぎちゃって、会社の形態をなさないような状態まできている。

その人が原発の事故のところに行って、フィルターベントを新しく作ると言っても、説得力がないんですよね。もう会社更生法すら適応されない状態でしょう。その信頼できない方がいくらテレビに出てきても、つぶれた会社の社長が何を言っても、誰も信用できない。

ああいう処理は国に移管してやらないといけない。結局はやらざるをえない。責任を取れない人がいくら出てきても、というような状態ですよね。

—— そうですね。私が感じているのはちょっと違って。そういう組織の専門家とか、そ

ういう会社の人たちの話はよく分からないんだけど、第三者機関みたいところが、もう少し中立的な立場の方が言ってくれれば、もしかしたら聞けるかもしれないという気はしますね。

専門家の方がおっしゃると、それはあなたはそちら側の立場だからそう言うでしょう、って聞いてしまうんだけど、もう少し中立的な立場の人から言われたら、ああ、なるほどと思えるかもしれないし。

先ほど読売のことは信用できないと言ったのは、読売はそちら側の人だから、という先入観がまずあるわけですね。だから、マスコミっていうよりも、そういうことなのですよ。

—— ああ、なるほど。

—— だから、朝日が言ったらこうだとか、そういうのが頭の中ですでに図式化されてしまっているの。

そうではなくて、そういう人（第三者）たちから言われたらかな、とは思いますがね。

—— 例えば、池上さんは、やはりそうですかね？

—— どうでしょうね。私はそんなに池上さんは。いや、分かんないんですけど。

私は、やはりテレビというのはある程度限界もあるし、分かっていると言わないこととか、言えないことがあるんじゃないかなと思うので。

どういうふうに出ていったら、その情報を聞こうと思えるのかは、ちょっと難しい。

—— アメリカの NRC は、自分の責任で停止命令が出せるんですよ。

日本の規制委員会は、基準を作りました。でも、途中の段階で停止とか、稼働とか、廃止という命令が出せない。それと、それを調べる能力としても、人数が少ない。中途半端な形で、政治的に動かす、動かさないとか。責任を持って情報を出すというのが、日本の社会では弱いんじゃないかなと。

(F) 先ほどの第三者機関というのは、説明をする、情報を出すことに関する第三者機関という意味ですか？ もっと原発全体を管理する第三者機関という意味ですか？

—— そういう管理するところがあって、その広報担当者みたいな人が言ってくれれば、

(F) ああ、少なくとも広報とかに関する、独立した機関という意味ですね？

—— うーん、そんなに難しく、そう突き詰められると…。

—— 例えば東電さんの事故の情報が、東電さんの担当者というよりは、

—— そう。別の組織から出ると、

—— かつ、分かりやすく翻訳してくれていると、もっといいかも、みたいな。

—— そうですね。そう思います。

(F) じゃあ、「当事者以外の第三者」って書いてください。

—— そうすると、テレビのコメンテーターとかは、だいたいそういう感じだと思うんですけど。

—— テレビのコメンテーターは、うーん、どうなんだろう。テレビというのは、やはり、ある程度スポンサーの意向があったり。あと、その番組が選んでいるコメンテーターじゃないですか。だからそういうのとは違うと思うんですよね。

—— あと、ひとつ提案は、原発の電力を一般国民が供給されて便利にさせていただいているんだから、逆に、専門家じゃなくていいと思うんですよね。

—— うーん。

—— 東京とか、福島とか、住んでいるところの、専門家でない方だけでも集まって、意見を出されてもいいかなと。別に専門家じゃなくてもいいと思うんですけどね。

専門家になると、じゃああなたはどちらの立場か、なんてことになってしまって、限りがないので。恩恵を受けている方々。電気代が上がったら困るから。

(F) そうですね。その理由は、原子力の専門家は、賛成派と反対派の2種類しかいないから、第三者がないから、だから、という意味ですよ。その理由をちょっと書いたほうがいい。

(サブ F) こちらの方に、それに対する意見をもう1回聞いたほうがいいんじゃないですか？

(F) でも、その前に今のご意見を書いていただいていた方がいいですか。

(サブ F) あ、書きますから、進めてください。

—— ええと、どんなことを言ったらいいんですか？

—— だから、なんて言うのかな、関心のない方。

—— 関心のない方というか、やはり中立である組織は必要だと思います。

—— ただ、国の作った第三者機関って、今まで中立であったためしがないから。

—— そんなことを言いだしたら、もう何も、

—— 中立に見えたためしがないということですね。

(F) 分かりました。こちらの方からの要望は、中立であればいいということですね。そちらの方のご意見は、さらにそういう、もうひとつのカテゴリーのということですね。他に何か、ええと、

(サブ F) その手前のところで、まず、「あるのか、ないのか」はほぼ一致したということを確認したらいかがでしょうか？

(F) 5個しかないけど、1人書いていないのかな。

—— 私は一応「ある」ですけど。ああ、そうか、私のは書いてくださったんですね。

(F) あれ？

—— ああ、私、書いていないです。「ある」です。

(サブ F) で、「何なのか？」というところをもう少し話し合ったほうがいいんじゃないですか？

(F) そうですね。ここについては全然議論していないので。原子カムラとは何なのか。

これについて何かコメントとか、質問がありましたら、どうぞ。

—— 「なくなりつつあるものにしがみつく」というのはあまり認めたくないところがあるんですけど。

例えば、石炭鉱山は日本にかつてはたくさんあったと思うんですけど、最後まで誇りを持って働いていた人たちがなくなったんじゃないかなと想像したいので、そこはちゃんと最後まで責任を全うすることが大事かなと。仮になくなるとしても、最後まで責任を全うすることは大事なのかなと。

ちょっと「しがみつく」というのとは感じが違うのかなと思いました。

—— ムラというのは、否定的な意味のムラと。それから、技術とか、知識とか、推進とか、集団でしないといけないムラという、良い意味のムラと。そこを分けないと。なければいいというのではなくて、集団というのにはなかったら絶対いけないし。

だから、否定的なムラという意味から、肯定的なムラにするためにはどうしたらいいのか、という感じで話をしたほうがいいんじゃないかな。

(F) まあ、ここは「何なのか」ということですから。

—— 私は、やはりムラというのは基本的に良い意味で使われていないと思うんです。マスコミの情報がほとんどだと思うんですけど、あまりいい意味でムラって使われたためしがないと思うんですよね。

—— ということは、やはり、ムラというのが、原子カムラという言葉がなくなったほうがいいということになるのですか？

(F) ムラという言葉がなくなったほうがいいのか、ムラがなくなったほうがいいのかは全然違うわけですよ。

—— ああ、そうか。

(F) で、ここの質問は、原子カムラが何なのか、という質問ですからね。

(サブ F) 「何なのか？」ということを知っている。ここには、[原発推進集団]とか、グサッと書いている付箋がありますね。あとは、[産・官・学・メディア]、あるいは、[産・官・学]。[専門家]、これは、

—— まあ、原子力関係の専門家。

(サブ F) まあ、とにかく専門家っていうことですね。そういうくくり。

こちらのほうは、こういうニュアンスを含んだ言い方かな？

—— その一部だと思うんですけど。私のほうがちょっと狭いけど、その中に入っていると思います。

(サブ F) では、ここに並ぶわけですね。

—— はい。

(F) まあ、この4つは、良い意味も悪い意味もあるわけですね。悪い意味を持っているというこちらのほうとはちょっと違うんじゃないかなと思いますね。

(サブ F) では、こちらは悪いイメージという感じですね。

(F) 辞書でいう定義がこちらで。

(こちらは) それについてどう思うかということ。

—— あと、地元が入る場合もありますよね。立地地域というか。

—— 立地地域の人のことを、ムラっていう場合もありますか？

—— いわゆるお金で結びついている人たちはすべてムラに入るという意味で、それもムラっていう。

—— 中央政府と、地方の知事さんと、原発の見えるところに住んでいる方。という分け方を私はするんですけど。

—— この人たち(立地地域の人々)までムラに入るっていうのは、私は意外だったので。

—— 入るかもしれないけど、ちょっと私の認識とは違うかなという気がしますね。

—— 私もそうですね。

—— 入る定義もあるかなと。基本的にマスコミは批判的な意味で原子カムラって使っていて、

—— というと、やはりお金とかが絡んできてしまって。

—— ええ。マスコミは、地元の人を批判するわけにはいかないはずなので、そういう意味では外れることが多いかなと。

(F) ちょっと質問ですけど、これはどういう意味だったんですか？

—— ああ、それは、前回のときに本当に感じたことを書きました。

私は、やはり専門家が原子カムラと言われているところの人たちだと思うので、そうすると、情報量もそうですし、そういうものが圧倒的に違うというのを、すごく感じました。まあ、(一般人が情報を)避けて通っているのか、本当に出回っていないのか、そこは分からないんですけど。専門家と一般の人たちの情報量の差、こんなに違うなっていうのは、すごく感じたので。

—— 専門家が、自分の置かれている立場を理解しているかどうか疑問なのですよ。

—— 置かれている立場ってどういうことですか？

—— 要するに、研究はするけど、結果としてどういうものが出てくるのか。自分の置かれるポジションは、原発の中で何を意味しているのか。

(総合 F) あと 15 分になりました。サブファシリテーターさん、聞こえていますか？ あと 15 分です。

—— 一部のものに関してはすごく専門的だけど、周りが見えない。世間が見えない。

(サブ F) あと 15 分なので、ここはもう、大まかにこちらの意見が多かったということでまとめて。最後に、こちらをもう少し深く突っ込みましょう。先ほどいいところまでいったから、続きをしましょう。(小声でファシリテーターに指示)

—— うーん、どうなのでしょう、中にいる人たちは。

—— だから、金属の疲労度合いとか、中性子のことはご存知だけど。その方の研究が追

とされていって、果たしてその結果がどのように活かされるのだろうか。

(F) すみません、では、「何なのか？」はだいたいそういうことで、ええと、定義と、批判的な意味での定義という2つにまとまったと思います。

「どうしたらよいか？」というところを少しまとめていきたいと思いますが、たくさん意見が出たので、

—— 多様性に関して補足ですけれども、多様性って、究極的には国際間というのがあるかなと思っていて。外国人の登用とか、あるいは国際的な交流をやっていく必要があるかなと思っていました。

—— 国際機関で働いていた人も、ずっとそこ（同じ会社）で働いていた人とは若干考え方が違うので、そういう人も多様性の一部になるのかなと。

(F) 自分で言うのもなんですけど、これ（規制当局を廃止し、米国 NRC に一本化する）は究極の多様性ですよ。日本とアメリカとでやるというわけですから。

—— 多様な人がたくさんいればいいわけじゃなくて、いろいろなものの考え方の人に決定権を持たせないと、多様にならないですよ。意見を聞き流されてしまっ

—— だから、そういう広い視点を持った判断をしてもらうためには、多様性が必要じゃないかなって思ったんです。

日本の組織って、1人の人が決定をするのではなくて、たいてい2、3人の決定権者が相談して決める場面が多いと思うので、やはりそれぞれ違う視点を持った人が合意したことは信頼できるかなと思ったんですよ。

—— 私なんかは、極端な話、我々団塊の世代辺りの人は、もうほとんど関与しないほうがいいんじゃないかと思うぐらいで。

(笑)

—— （団塊の世代は）結局こうなるまでほとんど何もしてこなかった。

半分女性、半分男性で、若い方たちがこれから仕組みを作っていくのであれば、そういう人たちにお任せしたほうがいいんじゃないかと思うんですよ。

我々が一番、このエネルギーの享受を受けて失敗した年代なので、我々にはもう完璧に決定権はないと思っています。意見が通るとも思っていません。次世代にかなりの負担を

残してしまっている結果になっているので。

いや、よくそういう話をすると、年寄りも知恵があるだろうっていうけれども、知恵がないからこういう結果になってしまったので。

(F) 多様性について、他に何かご意見はありますか。

—— そういう意味でも、そういう団塊の世代と、若い人も入ったところで、皆で合意すればいいんじゃないですか？

—— もう年寄りはいりません。知恵がなさすぎます。

—— いや、そういうことはないと思うんですよね。

—— あてにしないほうがいいです。

(サブ F) 「そういうことはない」というのは、意見を書いてください。

—— え？ ええと、若い人が… (付箋に記入)。

—— 負担は全部若い人にいっちゃうんですから。

—— だから、若い世代が次の責任を持たなきゃいけないので、若い世代が少しは入っていったほうが。自分に降りかかってくると思って、

—— なにしろ、若い方が失敗できるような世の中にしておかないと駄目です。我々がこんなに幅のないものを作り出したんですから。若い方には失敗してほしいんです。散々我々は失敗してきたんだから。

—— 多様性に関しては、私もサラリーマンをやって、就職をして、そこが終着点。だから、いろいろなところ、自分の専門性でキャリアアップという感じがないと、

—— なんだろう、キャリアアップ・ダイバーシティじゃないですけど。

—— 就職して、内部でステップアップするから、同じ考え方しかできない。

—— そういう面は確かにありますね。

—— だから、ある意味で多様性ということで、日本の会社でよその会社から人を持ってくると。

—— 多様性が重要なのは分かっている、そうあるべきだと思うんですけど、社内の仕事の議論で、やはり、考え方が近い集団のほうが、あうんの呼吸が取れるというか、仕事がしやすいんですよ。

これが多様になってくると、いちいち衝突して、なかなか進むものも進まないかな、というところは、ちょっと正直考えてしまったのはありますね。それを乗り越えていくべきだとは思いますが。

—— 物事をはっきりしないといけないから。曖昧なところが残って、あうんの呼吸というのはよくない。それはなしで、結論を出して進めないと、仕事がやりにくい。

—— 現場で一緒に仕事をしている人たちのあうんの呼吸は、チームワークとして大事だと思うんですけど、組織として判断をしなければいけないところは、多様であってほしいなと思うんです。

もちろん、普段仕事をしている人たちも、多様な人たちでも一緒に仕事することで、あうんの呼吸はできると思うし。

—— 現場でも現場監督というのがいて、それが馬鹿だとやはり段取りが悪いので、建物がガタガタになっちゃうんですよ。要するにガバメントの問題で、多様性がないと、なんとなくあうんの呼吸で、シャンシャンシャンで物事を決めてしまうと、結局責任がどこにいったか分からない。

(F) あうんの呼吸のほうがやりやすいというのは確かだけど、それがやはりまずいわけだから、そのところは両方いいというのはないというわけですよ。

—— 先ほど、東京電力はもう事故の会社で、社長が出てきても信頼がないというご意見があったのですけれども、

—— 東電の社長を見ているとかわいそうで、かわいそうで。山一の社長みたいに、いつ泣き出しちゃうんだろうっていうような。

—— あのと、山一の社長さんは1人で謝っていましたよね。

—— はい。なんでこんなときに社長になったんだろう、というような。

だから、悪いというイメージではないんですよ。かわいそうという感じで。運が悪いというか。あの社長が作ったわけではなくて、その前の前の前の社長が作っているものを、今の社長が責任を取らざるを得ない。

—— 東電の社長さんだけの問題じゃなくて、政府が中途半端で。つぶさないように税金をつぎこまないから。責任を取らないからだと思う。だから、つらい立場ですよ。

(サブ F) では皆さん、あと残り 5 分なので、ファシリテーターさんに舵取りをお願いしましょう。

(F) 多様性についてはいろいろな意見が出たので、残りは情報の出し方についての議論ですけれども、何かひとつにまとめたいですね。

「信頼関係も必要だ」とか。

(サブ F) キーワードは「信頼関係」でよろしいですか？

ここは「多様性」がテーマ。ここは「信頼関係」。

—— その 2 つは、私は関係あると思うんですけど。

(F) キーワードをどうしますか？ 情報提供ということですかね。情報提供のあり方。

—— 情報提供のあり方。うーん。

(F) 情報提供に、例えば、信頼関係が必要とか、そういうことですよ。

—— 情報を出すことも必要ということですよ。

(総合 F) あと 5 分です。準備が終わったグループは、ホワイトボードに模造紙を貼ってください。

—— 出す側も多様だったら、「こういう出し方だけじゃない」という意見が出てくると思うんだけど、一様だと…

(F) たぶん先ほど言われたのも、責任ある立場がないから、情報が出せない…

(サブ F) あの、バラバラになっているので、全員でひとつのことを話しましょう。

(F) もう終わっちゃうんですか？

(サブ F) もうそろそろです。

—— 情報に関しては、図書館に行けば、腐るほどあります。

(サブ F) では、1つのことについて、お願いします。

(F) はい。では、多様性についてはまとまったので、こちらは、

(サブ F) こちらは、ここまで付箋が来ているんです。

(F) この付箋は多様性ですか？ これは少し違いますね。

(サブ F) では、これは「情報」のほうに貼ります。

(付箋の貼り換え)

(F) ええと、そういうことで、もう時間は終わりですか？ では、どうも、ご協力ありがとうございました。

—— 発表者は誰ですか？ ファシリテーターの方ですよ、なんて言ったりして（笑）。

(模造紙を貼った)

(サブ F) ファシリテーターさん、まだ直しますか？ では、ちょっとこちらに来てください。

(ファシリテーターとサブファシリテーターで、貼られた模造紙の前で相談した)

<終了>